

福島青年新聞

發行日 毎月一回十五日發行
編輯兼發行 中村都敏
印刷所 福島縣田町本町七十
福島青年新聞社
廣告料 一行五十錢 場所指定倍増
定価 半年一圓十錢 一年二圓

内務文部兩大臣訓令と

青年團の事業

縣下各地に於ける

地方青年會員は、多く農國心の基礎觀念は自治體に村父兄の子弟である、故に將する貢獻である、自治體青年團は農村の子であるとの細胞は家である、家の細いふことが出来る、農村を胞は家族である。青年は健全なる國民たるの素養を得

江名町の現況

町制實施後の發展振と 大江名を形成する中心人物

江名町は磐城海岸の中央部町の生命とも云ふべき漁業に位し小名濱より約一里平の發展は目醒しきものか、町より約三里、兩者より軌つて、年漁獲高百萬圓に達積〇、八九里、廣袤東西一以上の如く當町財政に大を二〇里、南北〇、二三里になしつゝ、ある熱心な漁業家人物を紹介すれば、

田廣太郎、加澤一造、黒川大森屋、以上の中心人物に發展してゐるから將來の江喜一郎、佐藤己之藏、加澤依て、江名町は活目に價するものが信造、中田房五郎、吉原龜吉、加澤多七、石川吉松、坂本捨吉、白土徳兵衛、四家清吉、中田精造、金成文平、坂本與惣兵衛、黒川清記、金成彌吉、太清左衛門、吉田與右衛門、吉田長八、吉田六左衛門、吉田吉松、金成寅造、眞壁榮吉、吉田弘藏、吉田權右衛門、吉田久四郎、吉田兵十、吉田榮吉、吉田長兵衛、吉田喜十瀧口平治、比佐徳松、會社重役 遠藤俊一郎、坂部萬藏、新妻元次郎、次に教育の大臣に當る、小學校長並に人命救助の責任を負ふ醫院を紹介すれば、校長長藤弘、醫院 平川醫院、首藤醫院、池部齒科醫院、

賣藥小間物化粧品 吉田菊太郎、醬油醸造業 坂本與一郎、酒造業 吉原與平米酒醬油 鈴木定彌、鑛泉湯 小平湯マサ、履物製造 豊間屋商店、砂糖味淋雜貨 高島屋商店、米精米 鈴木多重商店、鹽干魚乾物類 坂本商店、水問屋 吉田大治郎、賣藥化粧品 港屋奈吉商店、吳服太物仕立物 新九屋商店、三國屋商店、江名運送店、江名魚商會運輸部、建具商 比佐建具店料理旅館の紹介 北野家、山口屋

風光明眉の四倉

天惠的海水浴場として 人氣沸騰す

四倉海水浴場は世人周知の最も信用ある營業者を紹介如く天然の灣形を劃し、風せん、先づ旅館として衛生波常に靜穩にて何等危險無完備顧客本意とする柏屋旅水浴場なり。松本屋、鈴木屋あり、醫院交通また至便にして、平四として斯界の權威者門會倉間汽車自動車、小川四倉次郎氏、額賀醫師、野田醫院は臨時増發をなす盛況で師、何れも名醫の稱あり。暫く燒熱の日が打續き此酷暑衛生を重んじ純良全乳鈴木署を避けんが爲に、近くは牛乳舎あり、生たて卵の干平町及其附近炭坑は勿論遠として小松屋養鶏所、長谷くは東京方面、會津若松方川養鶏所あり夏菓子の御好部よりの浴客は日に増し其みに應じ風味佳良の菓子司數を加へ流石に海岸には海水野屋本店、吉田屋本店、水に浸るもの、砂に伏するが一番よい。

時事一束

ツエ伯號出發は十四日に、日本へのコースはツエ伯號の大試練だと云ふ掛聲のみに終らず航空界のため成功を祝る。

本社法律顧問 門傳 清吾

一般法律事件の需に應ず
增加の傾向にて明かなり。通勤せねば女子の教養を受
一般浴客の参考迄に同町のけられざるが、近年私立警

